



▲この4コマ漫画は美術部に描いてもらいました！

一口サイズのドーナツの詰め合わせ。プラスチックフォークが、二本刺さっている。「部室に行けば、だいたい誰かいるんですよ」彼は、奇術同好会に所属している。活動は少ないが、部員で集まることは多いそう。だが今日は、たまたま誰もいない。黙々と、一本のフォークでドーナツを頬張る。最近、指を使ったステージマジックの練習に励んでいる。「あれ、消えた」技を披露してもらおうと、コインがいつの間にか左手から右手へ。手元は動けど、その顔に少しの変化もなかった。



▲ドーナツを食べていた奇術同好会の経営2年

YOUは何しに理科大へ？ Why did you come to RIKADAI?



4月に入り、2カ月ほどあつた春休みももうすぐ終わろうとしている。ある日キャンパスに行ってみると、そこには多くの理科大生がいた。謎に包まれた理科大生だが、彼らは春休みになぜキャンパスに来ていたのだろうか。学校で何をしていたのだろうか。

そこで理科大の神楽坂キャンパスと葛飾キャンパスにいた学生に話を聞いた。2月からインタビューを始めたため、その時期特有のエピソードも……謎のベールに包まれた理科大生の生態がいま明らかとなる。



▲会長を待つ新歓担当部員

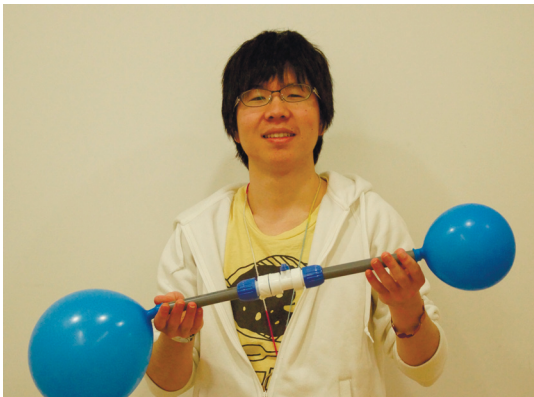
建築3年(左)と情報工2年(右)(写真上)「これは？」机にあった、一切れのパウンドケーキに目がとまったので聞くと、「随分遅れてしまいましたが……まあ、ホワイトデーのお返しを期待してるんです(笑)」そう答えて、隠してしまった。新入生へ伝えたいことを聞くと「背の小さい、茶髪の会長です。もし見つけたら、ぜひうちのサークルへどうぞ」メンバーに慕われている会長。「会長来ないな……」ちなみに30分後も、二人はそのまま待っていた。



▲磁石を探していた応用数学4年

▲chibi lab.に所属する応用化学2年

(写真左)「バナナ食べにきました！」予想外の返答に耳を疑う。「生協のバナナはおいしいんすよ！値段も安いし！」バナナなら近くの八百屋のほうが安いだろう。そもそも、なんでバナナなんだ。「あんまり食べ過ぎるもんだから、俺なんてゴリラとか呼ばれちゃって！」そう言っ胸をたたく。だめだ、ツッコミがまったく追いつかない。でも、なぜか楽しい。息をつく暇もないトークに、自然と笑みがこぼれてくる。彼らはいったい何者なのだろうか。「ただのゴリラですよ！」



陸上部が 全国大会で好成績

昨年9月、本学陸上競技部の徳村洋輝さんが日本学生陸上競技対校選手権大会の男子1000メートルで準決勝に進出した。同大会で4×1000メートルにも出場を果たし、リレーチームが全国の舞台で躍動した。この大会はオリンピックに出場した選手も参加する全国大会で、各地から精鋭が集まる。また、同じく9月に行われた、関東理工系学生対校陸上競技大会では、徳村さんを含めた部員が数々の種目で優勝した。特に4×1000メートルでは大会の歴代記録を更新して優勝し、大会の歴史に名を残した。今回は4×1000メートルのメンバーである、徳村洋輝さん、真田知幸さん、海老原雄輝さんに取材をした。

他大に負けないチーム作り

今回、その大規模な大会で好成績を残した彼らが、全てのことが上手く運んだわけではなかった。コンマ数秒を競う陸上競技において、タイムに大きな影響を及ぼす怪我を大会前日に

にしてしまったり、リレーの戦略を大会直前で変更したりと、好成績を残すための苦労を重ねてきた。また、グラウンドは毎日使用できないわけではなく、水曜日・土曜日の週2日しか使用できない。そして専門のコーチもいないので、他の大学に比べて環境が整っているとは言い難い。しかし、そ

のような欠点を工夫で穴埋めし、好成績を残したところ、本学陸上部の強みのひとつだ。『当たり前』の水準を上げ、短い練習時間の質を高めることが大切で

そう。そういうところは勉強などにも直結できると思います」と彼らは語った。

また、グラウンドが使用できない日でも、体を休める以外にちよつとした短い時間を活用してトレーニングする部員もいる。



陸上競技部

昨年度は全国大会に出場

左からリレーメンバーの海老原、真田、徳村、世古、築田

最新の情報はTwitterで更新している@rikadai_rikujo

(写真左上) 神楽坂キャンパス2階食堂に風船をたくさん持つ人がいた。彼は東京理科大学サイエンスコミュニケーションサークルchibi lab.に所属しているという。このサークル名は本学で一番長いサークル名かもしれない。

彼はなぜ風船を持っていたのか。3月4日に開催されたみらい研究室というイベントのための予備実験をしていたそうだ。そのイベントで風船を使った実験をやっていた。彼はドライアイスの実験ショーも行っていた。身長的には小さい彼が大きく見えた。(ちなみに取材した記者は身長147センチである。)

普段から効率を上げて行動することで、体だけでなく精神も鍛えているのだ。さらに、リレーなどではメンバー同士の信頼が大切である。大会で走るレギュラーメンバーだけでなく、補欠の選手などからのサポートもあつて

こそ、安心して練習に臨める。彼らに感謝し、各々の結束をより強固にすることで良い記録が出せるのだ。昨年度は念願であったチームでの全国大会出場を果たした。主力の選手だけではない、陸上部全体のレベルアップに向けて日々練習を行っ

新入生へ

最後に、新入生へのメッセージを聞いた。「いま、

理科大の陸上部は部全体で強くなろうとしている。理科大の部活やサークルに、こうして大規模な大会で戦える団体はなかなかありません。そのような高いレベルの中で、他にはないような経験を一緒にできたらいいと思います」と語った。

新しい生活、どう過ごすか

自分からアクションを

年度が変わり、本学に入

安の中には人間関係の悩みがある。大学生活において、気の合う仲間を探すのは難しいと感じる人がいるかもしれない。なぜなら、大学では今までの学生生活と異なり、クラスが存在しないからである。自然と近くの学生と会話する機会があつた今までと違い、自分から

上で勉強してきた方法では十分ではなく、それが報われないこともある。単位を落とさないための工夫を2つ紹介する。ひとつは講義に出席することだ。当然、テストは講義で講義に出席することが単位取得の基本中の基本であり、これがなければ取得できないと思つてよい。次に重要なのが勉強時間の確保である。勉強時間は多ければ多いほど理想的だが、課外活動やアルバイトをしているとどうしても十分な勉強時間が確保できない場合がある。まずは時間的余裕を持つて、勉強に支障のない程度に課外活動やアルバイトをするのはどうだろうか。時間を有効に使うことで単位をしっかりと取得し、4年で卒業してほしい。入学して、自分の周りを取り巻く環境が大きく変わった学生が多いことだろう。遠くから引越してきて一人暮らしをしている人、新しい環境で生活することになった学生が多く挙げる不

今回紹介した新しい生活環境に対しての不安や悩みなどの対応の仕方を読んで、自分の過ごし方を改めて考えてみてほしい。そしてこれからの学生生活を充実させるために参考にしてみるのはどうだろうか。